

まちづくりミーティング要旨

1. 団体等の名称 令和4年度まちづくり担い手育成支援事業参加者
2. 日 時 令和4年10月5日(水) 19時00分~20時30分
3. 場 所 那加福祉センター 1階 休養室
4. 出席者 <参加団体>13名 <市> 市長
5. テーマ まちづくり担い手育成支援事業の最終回として、参加者全員が今後の活動計画を発表。

【講師】

今日は5回目ですので、まずこれまでの4回を振り返ってみます。1回目は、私自身が柳ヶ瀬や各務原市で関わってきた事業を紹介して、まちづくりとは何かというお話をしました。まちづくりの定義が難しく、捉える人によって違ってくると思いますが、自分が考えるまちづくりってこうだよねというのを自分で考える時間をとりました。2回目は、具体的に対象の場所があった方が色々なまちづくりを考えやすいのではないかと思い、雄飛地区というのがまちの特色がはっきりしているということと地域課題がリアルにあるのではないかなということで、雄飛まちづくり委員会の方に現状を直接お話いただいて、それに対してどんなことができるかというような課題を考える、それから、みなさんには事前にまち歩きをしてもらって、そのエリアがどんなまちなのか体感して、インプットアウトプットの前段階の情報収集の時間をとりました。3回目は、それぞれ雄飛でやってみたいことの見解を出し合ってもらって、みなさんでそのエリアでどんなことをやるといいだろうか、あと自分がどんなことをやりたいかということのアイデアを出し合って意見交換していくという機会にしました。4回目は、個別に考えてきてもらったことを持ち寄って、それをどのようにみせるといいだろうかということと、どのような見せ方ができるだろうかというのを一緒に考える会でした。そして今日第5回目を迎えたという流れになりました。自分でつくる、住んで楽しいまちを自らの手でつくるというお題を出させていただきましたが、これが答えだよというようなことはなくて、それぞれが自分でできることを考えて仲間を作って一緒にやっていくというプロセスがすごく大事だと考えていまして、それがいいカタチで結果になってきているのではないかと思います。そのあたりを今日発表していただけるということで、楽しみにしているところですが、早速、発表をお願いします。

【参加者】

それでは、「自分でつくる、住んで楽しいまち」の発表をはじめさせていただきます。

まず、エリア紹介です。今回雄飛地区の中でも、那加雄飛ヶ丘町をターゲットとして企画を考えています。こちらのエリアですが、川崎重工の社宅開発に伴い整備されたエリアということで、道が碁盤の目のようにまっすぐ整備されているのが特徴的です。また地図にもある通り、学校や公園、駅が近く、非常に暮らしやすいまちだという印象を受けています。

第2回の際に、雄飛まちづくり委員会の方にお越しいただき、どういった活動をされているのかというお話を伺いました。少子高齢化に伴い、自治会運営を危惧するメンバーが集まって2016年に発足されたと伺っています。さまざまなイベントを既に企画されていて、「住んでみたいまち」と言ってもらいたい」「3世代交流できるまちをつくりたい」という思いでたくさんの活動をされています。

次に、エリア分析です。短所として、少子高齢化、空き家問題、自治会の担い手不足、イベントをた

くさん企画しているが参加者が少ないということ、碁盤の目のようで特徴的なのですが街並みが閉鎖的であることが挙げられると考えています。短所を合わせると、自治会だけで何か解決していこうというには限界があるのかなと感じました。一方長所としては、学びの森に近いというところで既に若い世代がすぐそばにたくさん集まっているというところです。イベントをたくさんされているというところと、ちょっと閉鎖的な街並みの車通りが少ないところになりますので、地区全体をイベント会場に活用できるのではないかなと考えています。この短所と長所を組み合わせると、人が集まることが解決の糸口になるのではないかと考えました。地域の人と外から来た人がつながる場所を提供することで、新たな縁をうんで課題解決をできるのではないかと考えました。そのためには、交流の場をつくる必要があると考えています。

次に、市場分析です。現状と課題を3点挙げます。まず1点目は、少子高齢化というところにもありますが、核家族が増加していて、世代間交流する機会が少ないという風に考えています。2点目は、モンテッソーリ教育だったりSTEAM教育だったり子どもの教育が話題になっているという風を感じています。ただ一方で教育を体験できる機会が少ないのではないかと考えています。3点目は、リカレント教育ですが、知る・踏み出す機会が少ないというところで、リカレント教育は社会人の学び直しというところになりますが、学び直しの機会というのも今注目されているところではないかと考えています。ここから読み取れることとして、交流の場が少ないというところと、教育が注目されているというところを組み合わせ、わたしたちの提案がこちらです。「〇育の森～わくわくする“えん”を育てる～」というものになります。〇は空欄の円とご縁の縁を表しています。空欄の〇のところに、イベントに合った文字を入れることで、全く異なるイベントだったとしても一貫性を持たせて、継続開催による知名度の向上ができるのではないかと考えています。ご縁の方の縁というのも、世代を超えた交流により新たな縁ができることを期待しています。「育」というのは、教育や、育むということを表しています。「森」は、学びの森が近いということをつけています。わくわくするえんを育てるというところで、イベントのコンセプトをどういったものにするかというところで、「わくわくする」を入れています。これから具体的に何かというところを紹介させていただきます。〇育の森ですが、3つのアプローチを考えています。1つ目は、毎回異なる1日単位のイベントをまちで体験していく。2つ目は、毎年恒例のイベントをまちの全体を使って遊んでいく。3つ目は、毎日の景色を彩るイベントをするということで、3つのアプローチで考えています。今から、それぞれのアプローチについて詳細を紹介していきます。

【チーム①】

まちで体験するというところで、わたしたちのやりたいことは何かってことを全体で話し合ったときに、それぞれ思いを持ってこちらに参加しているので、みなさんやりたいことが全く異なるものがでてきました。ですので、発表に向けてみんなの意見をまとめるためにどうしていこうか考えたときに、教育や成長、学び、相談の場をキーワードとして、イベントや運動、ミッションを考えてらっしゃったので、そこに注視してやっていこうかなと話し合いをしました。

今回私たちが提案するイベントというのは、参加型、研修型、見学型ということで形態にとらわれることなくやりたいことをとことんやりつくそうということになっています。人と人をつながりたいということがありますので、市外在住の方を対象に、ビッグイベントを起こせたらいいのではないかと、それで各務原市に来ていただく回数を増やすことで各務原市も知っていただける良いきっかけになるのではないかなということで、1日のイベントを複数回に分けて行うというようなかたちになっています。ただやるだけではなくて、もともと各務原市にあるマルシェ等にくっついてやることでコストとか広告の関係で、始めやすいのかなと思いました。そしてどんどんイベントの幅を広げていくというようなかた

ちになっています。それぞれが考えた、〇育の〇の部分を変えた提案を発表します。

「装育」…子どもから大人まで自由に装うことを体験してほしいということで、この企画をつくりました。この身に着けるというテーマで、自分の好きなもの、リングでもピアスでもなんでも好きなものを作って、最後は自身で作ったものと一緒に写真をとって、色々な人と写真を共有し、笑顔になる。最後まで自分で作ったという達成感をかたちに残すことだったり、自分と対話しながら作ることができたら最高だなと思いました。作り手の気持ちを実感したり、装育を通して、自分で何かを作るとかチャレンジするというハードルが低くなればいいなと思っています。最後はみんなのキラキラした笑顔で写真を撮れたら楽しい企画になるのではないかなと思います。

「眠育」…子どものねんねが整うと子どもの成長発達にもメリットがあるし、子育てをする保護保育者はねんねが乱れている子より整っている子の方が楽に生活ができるというのを私自身も実感しています。正しいねんねの知識等が、日本に8年前に入ってきたばかりでありあまり普及されていないというところで、教えてくれる場がないので、子どもの健やかな成長を願う保護者保育者の方に集まってもらって、ねんねの基礎知識セミナーやねんねお悩み相談等、ねんねのことだけじゃなく、子育て世代での交流の場を作れるといいなと思います。そしてその世代が雄飛地区に足を踏み入れてくれることで、若い世代に雄飛地区のことを知ってもらえるといいなと思います。

「好育」…子どもの好きなことを育てて伸ばす、自己肯定感を高め自分自身を好きになってほしいという2つの願いがこめられています。イベント例としては、昔なつかしい缶ポックリをアレンジした手作りおもちゃを作り、雄飛のまちを散策するという内容を提案させていただきます。牛乳パックを使った牛乳ポックリですが、おもちゃを作る工程では、ペンでお絵描き、シール貼り遊びなど、様々な好きが学べます。遊び方も本来の目的通りぽっくりをして遊ぶ子もいれば、振り回して遊ぶ子もいるかもしれません。見る角度、考え方を考えるだけで、発想は無限大に広がります。また、雄飛地区を実際に歩いたところ、道がきれいに清掃され、石やゴミが全然落ちていませんでした。雄飛地区に住んでいる方々が互いに迷惑がかからぬよう清掃を行うモラルの高さがうかがえます。このような地域であれば、小さな子どもが遊んでいても、優しく見守ってくれる場所、多くの好きとの出会いと好きを育てる場所としてふさわしいと考えました。

「感育」…“感”というのは、感性を意味していて、子どもから高齢者までそれぞれの感性から生まれた作品を披露する場を設けたいという思いで、感性を育むことを目的としてつくりました。雄飛地区全体を舞台として、例えば薬師寺で作品展示を行ったり、公園でダンスといった自分自身を表現するなど、雄飛地区の住民をはじめそれ以外の地区の人も様々なことを披露することでその作品などを見て、感性を育むことだけではなくて作った人と見に来た人との交流の場となれたらと思います。

「触育」…子どもに対する教室や、お母さんに対する産前産後のヨガなど、子どもにフォーカスしたときに、「触る」ということは刺激があって子どもにはいい影響があるということが研究でもわかっています。そういったことをもっと増やしていけないかと考えたときに、木を使って子どもに何かいい影響を与えられないかと考えました。木を使おうと思ったのは、各務原市は自然が豊かであるということもあって、地域の素材を活かして社会貢献できればいいかなと思いました。やることとしては、世代を問わず、木・道具・人を使って思い描いているもの

をなんでもいいから作ってみようというものです。子ども、お母さん世代、おばあちゃん世代の3世代そろってこういうことができると、その過程で育み合いということも大事にできるかなというのが僕の提案になります。

「火育」…火起こしをする機会があまりないというのと、IHの普及で子どもが火を知る機会があまりないと感じています。さつまいも大会を行い、実際に火を起こしてみても焼き芋を楽しむ、火がどういったものなのか学ぶ、消火器の使い方を学ぶ、などできたらいいなと思います。

以上が「まちで体験する」提案です。

【チーム②】

わたしたちのチームは、まち全体を使って遊ぶことをテーマにイベントを考えました。目指す未来は参加してくれた人たちにまた雄飛ヶ丘に行きたいと思ってもらえること、またそのためのイベントを毎年定期的に行うことが理想と考えています。そのイベントを開催することによって、多くの小学生や親を雄飛地区に呼び込んで、雄飛地区に住んでいる方や、近くの学生や、参加者との交流の場を作ることが目的です。イベントの名前は、「雄飛ヶ丘 de Halloween パーティー！」です。

イベントの内容については、宿泊のスタンプラリーを開催します。宿泊先は、薬師寺や空き家を使用することを考えています。1日目はスタンプラリーを行う雄飛地区をまち歩きします。その際に、高齢者宅なども訪れ、雄飛地区のことを教えてもらいます。夜は肝試しや、まち歩きで得た情報を交換し合う場を設けます。2日目はチームで行動します。スタンプラリーをしながら与えられたミッションをクリアして、クリアすることにお菓子をゲットすることができます。お菓子にはポイントが付与され、ポイントが高いチームがその年の雄飛王・雄飛姫になります。ゴールは薬師寺とします。イベントはお手伝いとして学生さんたちにご協力をいただきながらイベントを盛り上げていきたいと考えています。

わたしたちのスタンプラリーの〇育ですが、「きょう育」を目指すということを考えました。“きょう”には4つの意味が込められていて、雄飛地区を教わるという「教育」、行動を共にするという「共育」、協力するという「協育」、1日過ごすので「今日育」という4つで、参加者それぞれが多世代や多地域で関わりながらそれぞれにとって意味がある“きょう”となればよいと思いました。

これら4つの「きょう育」もしくはこれ以外の“きょう”を育むことで、また雄飛地区に訪れたいと思ってもらえるようなまちになっていくのではないかと思います、このような提案を考えさせていただきました。

【チーム③】

わたしたちからは、「まちを彩る」について発表させていただきます。雄飛地区のまちに色が無いというところに着目して、まちに色をともしたらいいのではないかと考えました。また、雄飛地区を訪れた人が、まちを気に入ってリピートしたいなと思えるまち、思い出に残るまちにしたいということを目的として考えました。

1つ目の提案として、手形の看板を作成することでまちに色を灯そうと考えました。これはマルシェなどのイベントを行う際に、子どもたちを中心に看板を作成してもらって、それをまちに飾ろうというものです。手形の部分に感想を書いてもらうなどして思い出をつないでいこうと考えました。これを定期的に行うことによって雄飛ヶ丘を思い出のあふれる、そして人々の思い出をつなぐことができる場になればと考えています。

もう一つの提案として、まちを彩るだけではなくて情報の交換をできる場所や機会を作りたいと考えています。これは、昔、駅前とか公園とかに黒板が置いてあるのをモチーフにしたアイディアの応用として、情報の交換ができる場として作りたいので、オープンなアンケートとして何かテーマを問いかけ

て、色んな人が回答してくれるもので、お店の宣伝やイベントの宣伝などもできればいいなと考えています。

これらのことから、わたしたちは「心育～みんなの心を見てみよう～」というのをテーマとしてあげさせていただきます。

【参加者】

以上が、3つのアプローチの詳細になります。わくわくするえんを育てるというところで、わたしたち自身がわくわくするような企画を挙げさせていただきました。

続いて、目指す景色についてご紹介させていただきます。わたしたちが目指す景色は、様々なイベントが開かれ、様々な世代の方がたくさん集まって交流し、みんながわくわくして参加しているという景色です。このような景色が日常的にみられるようになると、まちの魅力が上がると思います。そうすれば、地価向上により、空き家を手放す人が増え、再開発が進み、空いた土地に若い世代が引っ越し、恒常的にまちがにぎわうのではないのでしょうか。以上により「住みたいまち」「三世代で交流できるまち」が実現すると考えます。

以上のことから、わたしたちは地域の課題解決策として、〇育の森～わくわくする“えん”を育てる～という企画を提案します。メリットは3つあります。1つ目は、まちのファンを増やすことでまちの価値が高まります。2つ目は、ファンが口コミやSNS等でイベント情報拡散することで、縁が縁を呼び、またファンが増え、一層まちの価値が高まります。3つ目は、自治会員以外の参加者には参加費・場所代等を設定することで、自治会側の収益にもつながります。そうすると、設営等を業者に依頼する費用が捻出でき、自治会の労力が減る可能性も出てきます。以上がわたしたちの提案です。

【講師】

はじめの会としては、これ以上はないというくらい色んなアイデアがあって、すごくいい発表だったと思います。まちづくりというものに色んな解釈がある中で、私が思っていることとしては、人と人とが交流をしたり、ポジティブに思いを持って行動に移すというような出来事が、いかに場所に定着するかみたいなことだと思っています。何かしたい！やりたい！みたいな人が集まるとそこには場ができると思いますが、その場が場所として定着するかどうかは、ポジティブに何かしたいと集まった人たちと受け入れてもらえる場所がうまく結びつくかというようなことだと思っていて、その時にそれがうまくいくかどうかは、その思いを持った人たちだけではなくてその環境を作っている人や外側で見ている人たちが共感できるような仕組みであるとか、個人的にやりたいことは別であっても一緒にやってみたいと思わせるものであるかということがとても大事だろうなと思っています。そのあたりが雄飛地区の方に届いたり、そこで何か化学反応が起こるようなことになると、とってもいいなと思います。既にまちにある資源と結びつくというような、そういう展開があるといいなと思います。

【市長】

みなさん本当に素晴らしい発表をありがとうございました。やはりつながっていくというのは非常に大事なことでありまして、今市の総合計画の中でも「つながりづくり」というのを大切にしています。今日みなさんの発表で、3つのアプローチと〇育の森というようにまとめていただきましたが、みんなが考えやすい素敵なキーワードを持つというのは非常に重要だなというふうに思っています。市の今のキャッチコピーといいますか、目指すべき方向性としては、「ずっと、このまちで。」で、このあとに続く言葉を市民の皆様が色んなことを思い描いていただいて、みんなと一緒にクラブサークルを楽し

みたいとか、ずっとこのまちで住みたい、といったような、ここはたくさん思い描いていただけるような、そういったまちづくりをしていこうということで進めているところですが、今回皆さんが考えていただいたことと近いものがあるなというふうに思いました。今雄飛地区でやられている焼き芋プロジェクトも非常に素晴らしいものでありまして、やはり各自治会さんが色んなことを取り組んでいただいています。ただ自治会内で終わってしまっているものもありますし、大きな団体が色んなことをやっているという現状でもあります。まさにみなさんはそういったところでもこういった能力というか行動力がある、ここにいるだけでも行動力がある方々ですので、是非今度こういったかたちで活躍していただけたらなと思いますのでよろしくお願いいたします。

【参加者】

今回限定的な地域にしぼって問題課題の解決にどう向き合ったらいいかとみんなで話し合いました。大きい各務原市の中で小さな雄飛地区だけでも、すごく課題があったように思います。私の知らないこともまだあるだろうし、そういったところに少しは気づける力がついたのではないかと思います。今後のまちづくり活動の計画ですが、あくまで先程提案させていただきただけで、自分が提供できる側になりたいという強い思いがあるので、もう一回学び直しをしようと考えています。

【市長】

今回雄飛という特定の地域を調べていただきましたが、今度は自分の地域を見ていただいて、近隣の自治会をどんなふうに巻き込んでいったらいいのかというような発想ができると、さらに視野が広がり、面白い発想ができるかなと思います。

【参加者】

今日みなさんの発表を聞かせていただいて、まちづくり=人であると改めて感じました。各世代の人と交流をして意見を交換し合うということがとても大事だなと話を聞いていて思いました。ここに参加する前、人間らしく生活するって、人と人の間に立つことだなと思っていて、そういうのが今薄れてきていますが、人とつながっていくようなそういったイベント等に今後も参加していくことだったり、そういうことを自分自身も考えていけたらなと考えさせられました。

【講師】

まち=人というのは、実際そうだと思っていて、人がいてまちができるということだと思いますし、まちづくりにおける人って一体何なのかなという話はすごく大事な事だと思います。人が一人一人その人らしくいられて、その人同士が良いかたちで打ち解けられる環境というのがものすごく大事だと思います。自分が過ごす環境の中に、常にあいさつができる人がいっぱいいるというのはものすごく豊かなことだと思いますが、それは結局頑張って作らないとそうならないというのが現状だと思うので、すれ違う人ができるだけそうなるように働きかけるというようなことも小さなスケールでのまちづくり活動なのかなとお話を聞いていて思いました。そのようにして次の何か取組みにつながっていくといいのかなと思います。

【参加者】

わたしがこの事業を通して、まちづくりはまずその土地と人を知ることから始まることになりました。相互の関係を知らなければ、その後の問題解決の策を練れないということが第一前提であるということはこの企画を通して知りました。今回色々な職業の方や色々な学部の方と交流ができ、とて

もしい経験をさせてもらいました。今後なりたい職業は決まっていますが、この経験を今後活かしていけたらいいなと思います。

【市長】

今回良い経験をして、幅広い年代と面識ができて色々な相談ができる相手ができたとするのは宝だと思います。今後、自分が将来何になりたいかなということが必ず出てくると思いますので、こういった人脈を活かしながら、生活を楽しんで、勉強もして、さらに頑張ってくださいことを期待しています。

【参加者】

今回、各務原市や雄飛地区に何回も足を運ぶことで地域の魅力にたくさん気づきましたが、このように魅力を見つけるという視点を得られたのはとても良かったと思います。自分が伝えたいことはなんだろうって考えて伝えることがすごく大事だと思ったので、今後のまちづくり活動で活かしていきたいです。

【講師】

まちを歩いていて面白いなとかそういったことを肌で感じて自分で気づける、感受性があるということが、とても良いことだと思いました。自分が「面白い」「いいな」と思うものを掘り下げてそれに共感してもらえる人を見つける、そういったことがまちづくりになるという視点も大事にしていきたいです。

【参加者】

この事業に参加して、まちづくりは積み重ねの連続なんだなということに気づきました。まちづくりを行うためには地元の方やボランティアの方など様々な方の協力が必須であり、協力することによってまた新しい交流ができたり、また新しい企画ができたり、だんだん枝分かれしていくということにまちづくりの魅力があるのではないかと思います。今後どのようにしてまちづくり活動に自分が携わっていくか未定ですが、しっかりとこの事業で経験したことを活かしていきたいなと思います。

【市長】

各務原市のプロジェクトに参加してくださりありがとうございます。外部から見ていただいてどんなまちかというのは非常に参考になります。今回は雄飛という地域を見ていただいて、おそらく、自分の地域はどうだろう、ちょっと見てみたいなとそんな願望も出てきたのではないかと思います。自分のまちが自分のためになるにはどのようにしたらいいのかということこれからまた色々と考えて、そして発信発信をしていただきたいなと思います。

【参加者】

今回この事業に参加して、自分がただ外で見ていただけでは知らないことがすごく多くあって、実際に現場に足を運んだり、その人の話を聞いて、行き来することがすごく大切だなと感じました。わたしは各務原市のまちの魅力を発信する仕事をしていますが、様々な場所に赴いたりとか、地域の方々と交流するとか、まちづくり活動などに参加をすることで、自分自身の肌で体感をしてその魅力をお伝えできるようにしたいなと思っています。

【講師】

知らない地域に関わることには、外の人からどんどん当事者になっていくプロセスがあると思っています。今その入り口に立たれているのかなと思いました。

【参加者】

今までまちづくりと聞くと行政がやっているものというイメージがありましたが、そうでなくて、わたしたち市民がまちと向き合うことでまちづくりというものがついてくるんだと実感しました。まちは他の人の手に頼ってできるものではなくて、自分自身が主体的に関わっていく必要があるなとすごく感じたので、今のわたしにできることをその都度考えて、自分なりに、まちの情報発信を行うことなどを通してまちと主体的に関わっていきたいなと思いました。

【市長】

主体的というのができてきましたが、他人事ではなく自分事という捉え方をするとどんどん主体的というのが強くなっていくと思います。木で例えると、木の幹の部分で若い今の年齢だからこそ育て上げられると思いますので、積極的に色々学ぶことによってその幹を太くしていただきたいと思います。

【参加者】

こんなまちにしたい！とかあいうまちにしたい！とか、色々理想があるものの、まずそこに住んでいる人たちの視線だったり、目線だったり、温度感というのを一緒に感じるということがすごく大事ななということに気づきました。今後、ものづくりなどを通して、色んな人との縁を育んだり、発信できたり、このまちと関わる接点だったりをもっていけたら、自分ももっと頑張ろうと色んな想像が広がるのではないかなと思いました。

【講師】

ものづくりというと、どうしても利己的な部分がないと作れないのですが、住んでいる人の目線・視点・価値観みたいなものを大事にしながらそういうことをすると、今後またより力を伸ばしていくと思うので、頑張ってください。

【参加者】

わたしは今までずっと各務原に住んでいたのですが、イベントがあれば参加して楽しむだけで、何か支援があればその支援をしていただいて助けてもらってばかりいたんだなということはこのワークショップに参加してとても感じました。自分でまちを良くしていきたいという人が少しでも増えて、そのイベントとか何かまちに対して自分がやりたいと思う人が増えていけば、各務原が今以上に活気があって素敵なまちになるのではないかと思います。今後、私は手芸とか工作が好きなので、今開催されているフリーマーケットとかで出店できたらいいなと思っています。あとはそういうイベントのボランティアとかに参加できたらいいなと思っています。

【市長】

今まではただ行くだけの立場だったものがこれから何かをしていきたいというそんな認識を持っていただけだと思うので、色々な話があるかと思いますが、そういったものも良い機会だと捉えていただいて、自己肯定感とか自己高揚感というものにもつながっていくかと思っていますので、モチベーション上げるための情報収集をするというのも非常に重要かと思われるのでそういった点も頑張ってくださいと思います。

【参加者】

体験を通して気づいたことは、立場や専門分野の違う人たちが集まって話し合いをすると、ただ意見が広がるだけじゃなくて、内容の質が良くなって、より問題を深く見ることができるみたいな、これだけじゃなくて斬新な意見とか出てきて、いい経験をしたなというのを1番に思っています。私はまだまだ学べることが多く、すぐに計画して実行することは難しいので、まちづくりと関連づけて授業を受けたり、学んでいきたいなと思いました。

【講師】

伸びしろはまだ作れると思うので、これから積極的にまちのこととかに関わっていけたらいいのかなと思いました。

【参加者】

私は市民公園や学びの森であるイベントはだいたい行っているのですが、すぐ隣にある雄飛地区には出かけたことがなかったので、こんな地区があるんだと知れて新たな発見となってとても面白かったです。これからコロナが落ち着いてきて、自治会などでイベントを企画するとなったときに、私の地区も高齢の方が多いので、私も自分発信で「自分の地区でも何かイベントやりませんか」といった声掛けができたら色々楽しめますし、子どもが将来住むまちも活性化していくのかなと感じました。

【講師】

近所なのに初めて行ったというような場所ってたくさんあると思います。初めて歩く時に、ただの通行人なのかそうじゃないのかで全然違うまちの見え方になると思いますし、意識して歩くと、自分事と思えることは無限にあると思います。みんなが気持ちいいと思えることはどんなことなのか考えるきっかけにもなると思いますので、今回の雄飛地区の散策を機に、広げていってもらえたらいいなと思います。

【参加者】

世代も境遇もみなさん違うのに、意見を出し合ってひとつのものを作ったというのがすごいなと思いました。特にまちづくりというお題がありましたが、みなさんそれぞれの視点で色んなまちづくりがあって、まちづくりってひとつじゃないということを感じたプロジェクトだったなと思います。私も仕事でまちに携わることが多いので、この経験を活かしてこれからも頑張っていきたいと思います。

【市長】

今回は雄飛地区という一部の地域のみを見ていただきましたが、今後お勤めで活かすというふうであれば、その中におかれているポジションはどういうふうなんだろうっていう見方をされるとさら良いアイデアが出てくると思いますので、色々なものをたくさん見ていただいて、そういったものを参考に自分らしい発想を持って頑張ってくださいと思います。

【参加者】

この事業を通して、各務原市内にまだ足を踏み入れたことのない地区がたくさんあるだろうなと思ったのと、知らないまちを知っていくという魅力に気づけてとても楽しかったです。この活動に参加して、今あるものに目を向けるということを学ばせていただいて、子育て系のイベントだけに目を向けていましたが、雄飛地区などでやっている普通のイベントにも参加できるんだという新しい視点をいただいたので、今あるものを大切に、人とのつながりとか、今後大切にしていって、そういう場を作るために勇気を出していきたいなと思いました。

【講師】

つながりを持つことが人と出会うきっかけで、ちょっと自分が一步踏み出さないと、そのような接点ができないというのがありますよね。だけど踏み越え方とかこういう出方をするとこういう出会いがあるとかそのような手ごたえを掴むと、あとはそのつながりがどんどん広がっていくと思います。その中で、今までのキャリアとか自分の経験が生きていくと思うので、そういう展開をこれから起こしていただくといいなと思いました。